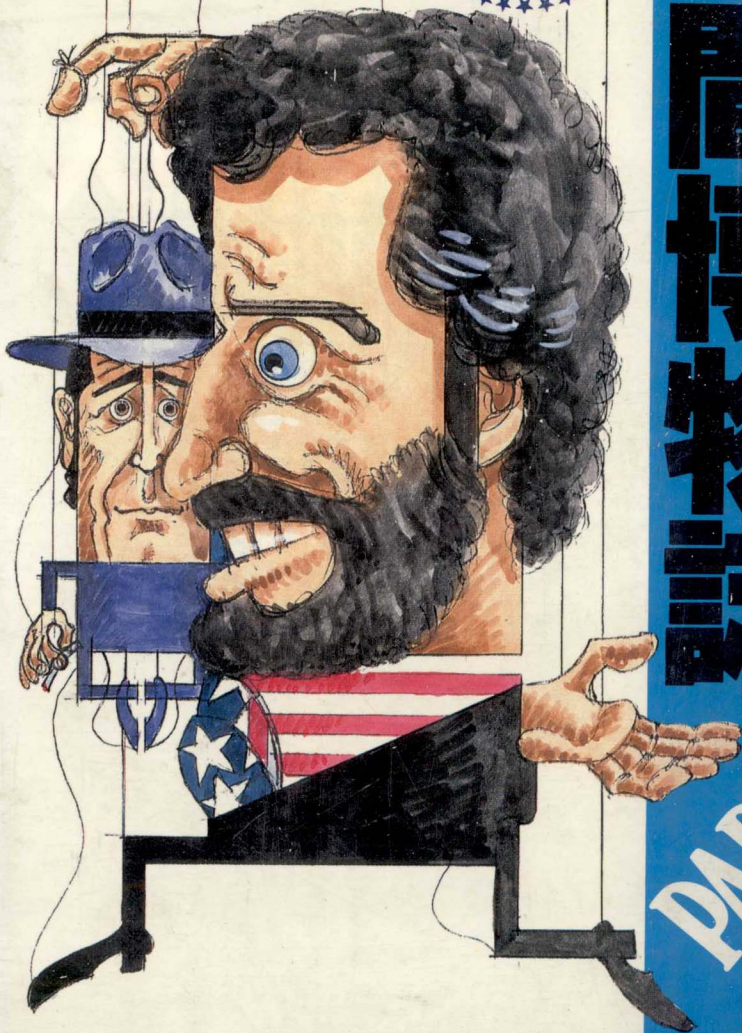


デヴィッド・ワルチンスキー
アーヴィン・ウォレス
井上篤夫・訳



人間博物誌

ワルチンスキーのドキュメント

PART II

ハ 間 博 物 誌 PART・II

オンのドキュメント



デヴィッド・ワルチンスキー

アーヴィン・ウォーレス

井上篤夫・訳

集英社

デヴィッド・ワルチンスキー (David Wallechinsky)

1948年、カリフォルニア生まれ。祖父の姓“ワルチンスキー”を受け継ぐ。『ザ・ワルチンブック』『ザ・ワルチン・スペシャル』(集英社)などのベストセラーで「ワルチン」の名は、日本の読者にもおなじみになる。

アーヴィン・ウォーレス (Irving Wallace)

1917年、シカゴ生まれ。アメリカを代表するベストセラー作家。著書24冊。世界中で1億5千万部を売った。『チャップマン報告』『新聖書・発行作戦』『セカンド・レディ』などの邦訳がある。

井上篤夫 (訳者)

1947年、岐阜市生まれ。翻訳家。アメリカ文化研究家。早稲田大学文学部中退。現在、著者のワルチンと『合作面白本』を制作中。『テニス・スーパースターズ』『ぼくは希望に向かって走る』(集英社コバルト文庫)他。

ワルチンのドキュメント人間博物誌

II

一九八二年一月二四日 第一刷発行

定価 九八〇円

著者 デヴィッド・ワルチンスキー
アーヴィン・ウォーレス

訳者 井上篤夫

装幀者 荒川じんべい

絵 桜井一

発行者 堀内末男

発行所 株式会社 集英社

〒一〇一 東京都千代田区一ツ橋二一五一一〇

電話 第一出版部 (〇三三) 二三八二二八二

販売部 (〇三三) 二三八二二七八一

印刷所 大日本印刷株式会社

©1982 Shueisha

0501-783036-3041

落丁・乱丁本はお取り替えます。

目次

第1章

殺ったのは誰だ！

推理小説よりおもしろい実録事件簿

7

不可思議犯罪の謎を解け

8

ヴァレリー・パーシー事件

殺人鬼ゾディアック

ジミー・ホッフア失踪事件

ゲオルギー・マルコフ殺人事件

名探偵登場

25

エリス・バーカー

エドワード・O・ハインリヒ

マクシミリアン・ラングズナー

裁くのは誰だ

39

レオ・フランク事件

ホールミルズ事件

ジェフリー・マクドナルド事件

シオドア・パンディ事件

心優しきギャング列伝

67

第2章

小説よりも奇なり ウソー、ホントのノンフィクション 81

ミステリアス・ドキュメント 82

ユダヤ人救出の英雄は生きている!?

元諜報部員がジャングルに消えた!?

誰かが牛を殺害し続けている!?

有名人の奇行録 96

奇想天外クイズ 100

神秘のベールをはぐのは誰か? 109

シャンバラ王国の探索は続く

パーシー・H・フォーセットの捜査は続く

コカ・コーラ製法の秘密を探る

雨をつくる人 127

マンハッタンでワニ狩りをした男 133

第3章

生と死のゲーム ワン・モア・チャンス 137

逃亡者たち 138

ジャック・シエバード

ラフィン・ピエトロフスキー

ウインストン・チャーチル

ドナルド・ウッズ

漂流者たち 156

「使徒信経」の口誦に救われた男

絶海の孤島を「楽園」に変えた男

巨大な氷山を船にして漂流した男
一本のオールに運命を託した男

ラスト・ゲーム

171

オーブレー・ピアズレー

シャーロット・ブロンテ

エリザベス・バーレット・ブラウニング

ジェロニモ

ジョン・F・ケネディ

マーガレット・ミッチェル

O・ヘンリー

ネルソン・ロックフェラー

ジョージ・バーナード・ショー

変わり種遺言録

195

芸術は爆発だ

実録アーティスト列伝

201

アーティストたちの人生劇場

202

ハンフリー・ボガート

レイ・チャールズ

マルセル・ブルースト

ハリール・ジブラン

マルクス兄弟

J・R・R・トールキン

先駆者たちの悲劇

美しき《未完成》

248 236

映画マニアのためのウルトラ難問クイズ

256

セックス・ライフの飲み

夫婦円満の秘訣教えます

261

性の手引書総カタログ

262

『カーマ・ストラ』

『匂える園』

『創造的性科学』

『悩める人へ』

『完全なる結婚』

『結婚の手引き』

『愛の技術と科学』

『ジョイ・オブ・セックス』

『愛と性の道』

『性の神秘』

記——六〇〇の体位

フアミリー・コネクション

301

ナポレオン・ボナバルト

アル・カボネ

ダグラス・フェアバンクス・シニア

本書に登場する著名人たち一覧

ワルチンのドキュメント
人間博物誌

P
A
R
T
II

THE PEOPLE'S ALMANAC #3

Copyright © 1982 by David Wallechinsky & Irving Wallace

Japanese translation rights arranged with Ed Victor, Ltd.
through Japan UNI Agency, Inc.

殺ったのは誰だ！

推理小説よりおもしろい実録事件簿

【第1章】



不可思議犯罪の謎を解け

ヴァレリー・パーシー事件（一九六六）

シカゴ郊外の高級住宅で、億万長者の娘「ハニーブロードのヴァレリー」が残忍な手口で殺された。犯人は強盗か、性倒錯者か。一万四千人の容疑者と一、三二七件の手掛りで謎は解き明かせるか？

事件 時は一九六六年、所はミシガン湖畔、シカゴの郊外にある素敵な町ケニルワース。上院選挙キャンペーンに夢中になっていたチャールズ・H・パーシー家の人びとは、誰かがこの静かな邸内に不法に侵入してこようなどとは、想像だにしなかっただろう。

一七部屋あるこの大邸宅に賊はどのように入り込んだのか。明らかに賊は網戸を裂き、フランスドア（全面ガラスの観音開きの扉）のガラスをくり抜いて、音楽室に入った。そして二階に上がり、二一歳になる双子の娘のひとりが眠っている部屋へと忍び込んだのだ。賊が物音を立てて、彼女の目を覚ませたのだろうか？ 確かなことは現在に到るまでわからない。わかっていることは、賊が彼女の頭蓋骨の左側を殴って陥没させ、両胸、首筋、腹を二回、左眼の上、左頬、顳顬、耳を刺し

たということだ。

その日、九月一八日早朝、娘がやっとの思いで上げたうめき声が長く尾を引いた。それを聞きつけたパーシー夫人が部屋に飛び込んでいくと、侵入者は懐中電灯の光を夫人の目に浴びせかけ、彼女が目がくらみ恐怖に立ちすくむすきに、逃げ去った。夫人がようやく金切り声を上げると、億万長者のパーシーが目覚し、すっ飛んできたが、時すでに遅し。ハニーブロンズの娘ヴァレリーは虫の息になっていた。

捜査 この殺人事件は、暴力犯罪がめつたに起こらない地域で発生した。ケニルワース地区は、家庭収入の平均値（当時で年収二二、八〇〇ドル）と就学年数（一五・三年）からも、シカゴの一七五の郊外地区のトップに立つ。教会がふたつ、酒場などはなかった。村の警察には一人の警官がいたが、どちらかというと、殺人よりは車のホイールキャップ泥棒を捜すほうが手慣れていた。そこで、シカゴの有名な犯罪研究所の技術者、クック郡の捜査官、FBIが応援に駆けつけた。

ヴァレリーの死を確認した医者は、「何か性的なものが動機だったにちがいない」という。だが、殺人犯がはたして男か女かを示すものすら残されていないのだ。その週末までに一五〇人が取調べを受けたが、主犯容疑者として浮かび上がった者は誰もいなかった。

糸口 それから七年あまりの間に、取調べを受けた者の数は一万四千人に膨れ上がり、一、三三七件の手掛りとおぼしきものが調査された。自白をした者も一人いる——すべてウソだった。おまけに、その一九人目のマイアミ出身の二七歳の男は、ジョン・F・ケネディ、ロバート・ケネデ

イ、それにマーチン・ルーサー・キングも自分が暗殺したのだという始末。

しかし、一九七三年、警察はこの殺人事件の真犯人（たち）について、はっきりと的を絞った。彼らは、当局でいうところのマフィアをバックにした盗賊団で、全国の金持ちたちの家に盗みに入るのを専門にしている者だと考えられた。そのメンバーのうち、このようなことをやってのける暴力嗜好の持ち主として、ふたりの男の名前が挙げた。ひとりには、武装強盗を働いて、アイオワ州立刑務所で三〇年の刑に服していたフランシス・ルロイ・ホヒマーという四六歳の男、もうひとりにはフレデリック・マルチョーという男で、ホヒマーの長年の相棒だったが、一九六七年にペンシルベニア刑務所を脱走した。しかし彼は鉄橋からダイビングして死んでいる。

さて、ホヒマーが強盗に入る時のお気に入りの武器はプロパンのトーチランプで、これは家に押し入る際の道具にもなったし、しぶる被害者に貴重品のありかを吐かせる「自白機」の役もした。ホヒマーが犯人であることを最初に指摘したのは、病で死の床にあったマフィアで諜報員のレオ・ルーゲンドルフである。彼は『シカゴ・サン・タイムズ』紙の記者アート・ベタックに、ホヒマーが次のようにいったと語った。

「やつらはヴァレリー・パーシー殺しで俺を捕まえるだろうよ。あの娘が目を覚ましたんで、俺はピストルで頭のとっぺんをぶん殴ったんだ」

新聞記者ベタック——のちにピューリッツァー賞を受賞する——は、ホヒマーの弟であるハロルドという男を探し出した。ハロルドも、ホヒマーが「娘をひとりバラさなきゃならなかった」といっ

ていたと語り、ルーゲンドルフの主張を認めた。別の証人は、事件の二週間前にホヒマーはパーシー邸を下調べしており、そこを襲うつもりだったと証言した。

そして、ついにホヒマー自身が沈黙を破ったが、彼は自分は事件には関わりないと主張した。かつて、事件の朝、仲間のマルチョーが血だらけの服で自分のアパートへやってきたと証言し、奴こそが犯人だといひ張った。さらにホヒマーは一九七五年に、押込み強盗としての自分の半生を書いた『ホーム・インベーター』という本を出版し、その中で数多くの窃盗を働いたことを認めている——メンフィスにあるエルビス・プレスリー邸に押し入ったこともある——が、パーシー事件に関しては、マルチョーが犯人だという主張を変えていない。

謎 当局は、この事件に関しては物的証拠が少なく、ふたりの主犯容疑者のどちらもパーシー邸に結びつけることができないため、訴訟は行われないだろうということを認めている。一番強力な物的証拠である四つのてのひらの跡は、ホヒマーのともマルチョーのとも一致しなかった。

それに、被害者の体を何度も繰り返し突き刺している、襲撃の残忍性についてはどうか？ こうした暴行は性的なものとするのが普通であり、プロの強盗の仕事とは考え難い。このことは、マルチョーだかホヒマーだが、他の押込みたちとはちがうタイプの人間だということを示しているのだろうか？ それとも、性犯罪者が襲ったように見せかけるほど、彼らはずる賢い人物だったのだろうか？ どちらにしろ、技術的にいえば、刑事訴訟ができないということによって、パーシー事件は未解決のまま残されることになる。

殺人鬼ゾディアック（一九六六〜）

「おれは人間をころすのが好きだ。そのほうが森でやじゅうをころすよりおもしろいからだ」殺人鬼ゾディアックはそう宣言した。アメリカ西部を震撼させた狂気の犯罪者の正体を暴け！

事件 公式記録によると、この奇怪で死臭の立ちこめるゾディアック事件の皮切りは、一九六八年十二月二〇日、一七歳のデヴィッド・フアラデーと一六歳のベティルー・ジェンセンという恋人同士の高校生が殺害された事件だった。ふたりはサンフランシスコのすぐ北にある、バレーホ郊外の人気のない道に車を駐めていた。少年は車の中で撃たれ、少女は逃げようとしたところを、五発も弾を撃ち込まれて死んでいた。犯人の正体は不明のままだ。

ところが、続いて一月の四日、殺人鬼は近くの公園で、また若いカップルを撃った。少女は死亡したが、少年のほうは、弾を四発喰らいはしたが、命はとりとめた。少年は犯人の懐中電灯の光で一瞬目をくらまされたので、相手がどんな様子をしていたか、非常に大まかにしか語れなかった。

それからいくらしないうちに、バレーホ警察に匿名の電話がかかってきて、

「おれは公園でふたりのガキを撃ってきたところだ。九ミリ・オートマチックでな。クリスマスに

ガキふたりを殺ったのもおれだぜ」

一九六九年八月一日、バレーホ警察とサンフランシスコのふたつの新聞社は、殺人犯からの手紙を受け取った。それぞれに、メモと暗号文の三分の一ずつが入っていた。その奇妙な三通の手紙と記号の意味は、容易に解けなかった。犯人は、自分のサインとして、円を十字で区切ったものを使っていた。それは黄道帯（太陽の軌道である黄道を中心に地球を巡る、想像上の帯）を表わしていた。次からの手紙で、男はこう書き出すようになった。

「おれはゾディアックだ」

捜査 新聞社が、さらに事件を起こすことを公言する、人を馬鹿にしたようなゾディアックの手紙を印刷している間、警察はこのようなことをしでかしそうな精神病患者の洗い出しを進めていた。さらに、『サンフランシスコ・クロニクル』紙の記者ポール・エイヴリーは、一九六六年に起こった女子大生チェリ・ジョー・ベイツ殺人事件の犯人の書いた手紙の筆跡が、ゾディアックのものと一致することを発見した。

糸口 ゾディアックの暗号を解読するのには、何よりも彼の字が乱雑だったため（おそらくわざとそうしていた）、数日かかった。それは、彼の異常な殺人の動機を垣間見せていた。

「おれは人間をころすのが好きだそのほうが森でやじゅうをころすよりおもしろいからだ人間はいちばんきんなどーぶつだからだなかをころすのがいちばんぞくぞくする。いちばんだいじなことはおれが死んだらてんごくに生まれかわっておれがころしたやつらがみんなおれのどれーになる

ことだ。おれはおまえらに名まえをおしえてやらないおれが死んだあとのためにどれーをあつめるのをおまえらがじやましたりやめさせようとしたりするからだ」

一九六九年九月、中世の死刑執行人の頭巾に似た四角いマスクをつけたゾディアックは、ベリエッサ湖の近くにピクニックにやってきたふたりの大学生を捕まえ、縛り上げた。彼は男子学生を六回刺し、女子学生のほうには合計二四カ所もの、血に染まった十字架形の傷をナイフで刻みつけた。そのセシリア・シェバードという女学生は死んだが、ブライアン・ハートネルという青年のほうは命をとりとめた。

数週間後、ゾディアックは今度はタクシーの運転手を殺した。だが、この時は犯行現場から立ち去るところを目撃され、警察は彼の容姿についての有力な情報を、初めて手に入れることができた。彼は年齢二五歳から三〇歳ぐらい、身長一七〇センチでぶ厚い眼鏡をかけており、茶色い（おそらく赤茶けた）髪を短く刈っている。だが、これはほとんど役に立たず、誰も彼を捕えることはできなかった。

謎 それから七年の間、ゾディアックは数字ゲームを続けた。警察が彼の被害者は五人だと発表すると、ゾディアックは七人だと宣言した。警察がその数字を六人と書き替えると、ゾディアックは一七人に引き上げた。最終的にゾディアックは、自分は三〇人以上殺したと公言した。が、サンフランシスコ警察は、そんなにたくさんさんの死体は無いと反論した。

しかし、一九七五年にソノマ郡の保安官^{シェリフ}、ドン・ストリーピークが、州法務長官のオフィスにフ